

令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	アーカスプロジェクト参画事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成 7年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	親しみを感じる芸術・文化の推進	市民協働	実行委員会
予算科目コード	01-100401-02 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>地域活性化を目的に、県事業の「国際芸術文化交流拠点整備構想（アーカス構想）」を誘致し、平成6年度の試行を経て、平成7年度から「アーカス構想パイロット事業」、平成12年度から現在の「アースプロジェクト」がスタートした。</p>	<p>市は負担金を支出し、もりや学びの里の施設を提供して、県、市、関係機関からなる実行委員会(事務局：県)によるアーカスプロジェクトの運営により、アーティストの招へい及び制作支援、活動発表会(レジデンスプログラム)や、一般向け、子ども向けアートイベント(地域プログラム)を開催する。 また、市内イベント活動等の運営や事業広報活動を支援する。</p>
<p>目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）</p> <p>県主催のアーカスプロジェクトに参画することにより、市民に芸術文化活動の体験機会を提供するとともに、地域の文化活動の推進と市のイメージアップを図る。 アーティストとの交流機会を提供することで、子どもたちの豊かな心と感性を育てる。</p>	
<p>(参考) 基本事業の目指す姿</p> <p>芸術・文化・歴史に関する活動に触れる機会・場を提供し、市民が芸術や文化を気軽に親しめるようにする。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>本事業は、世界的に有名になり毎年多くの国から、多くのアーティストの応募があり、有名芸術家への登竜門的な存在になっている。しかし、市民の認知度は低いため、市としては積極的に各種事業をとおしてPRしていく必要がある。</p>	<p>通年：守谷市のHPにバナーを設置 イベントの前に、県・市・事務局でのミーティングを行う。 4月～8月：招へいアーティスト募集・選考 11月：レセプション・オープスタジオ</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<p>広報活動の幅を広げる。 市民が興味をもつプログラムやイベントを企画する。</p>	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	<p>例年同様の事業を推進する。</p>

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度の取組（評価、課題への対応）
<p>アーティストインレジデンスプログラムで、3人のアーティスト（出身地：日本、イギリス、イタリア）が招聘され、市民に芸術鑑賞やアーティストとの交流の場を提供した。</p> <p>子どもや市民も参加しやすいワークショップ（ヒビノホスピタルvol.75）を開催した。</p>	<p>海外から若手アーティストを招へいし、創作活動を支援する「アーティスト・イン・レジデンス」では、3組のアーティスト（出身地：ラトビア、アルバニア・台湾、日本）を招へいし、オンライン等による制作活動が配信された。</p> <p>地域プログラムでは、参加者の想像力と思考力を育むため、例年開催しているアーティストによるワークショップシリーズ（ヒビノホスピタルvol.76）に加えて、市指定文化財（赤法花一里塚）周辺を歩き、「歩くこと」に対する考えの変化を共有する新たなワークショップを開催した。</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
事業に参加した市民の数（人）	1,799.00	1,819.00	1,900.00	2,176.00	1,515.00	1,010.00	2,200.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）							
<input type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input checked="" type="checkbox"/> 低下	<p>誰もが参加しやすく楽しめるよう創意工夫を図り、減少傾向にある参加者の増加を目指して、広報活動や市民の認知度を上げるプログラムを企画したが、参加者の増加にはつながらなかった。</p>						
今後の事業の方向性（→その理由）							
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	<p>令和3年度にも新たな海外アーティストを招へいする予定だが、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては招へいできない可能性もある。引き続き、地域プログラムを中心に、芸術に親しむ市民の裾野を広げる取組をPRするなど、「アーカスプロジェクト」の認知度アップに努める。</p>					

コストの推移						
項目	H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込	
事業費	計	4,500	4,500	4,500	4,275	4,500
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	4,500	0	0	0	0
	一般財源	0	4,500	4,500	4,275	4,500
正職員人工数（時間数）	124.00	101.00	10.00	10.00	0.00	
正職員人件費	518	414	40	39	0	
トータルコスト	5,018	4,914	4,540	4,314	4,500	

## 令和 2年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	文化協会補助事業	担当課	生涯学習課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	昭和52年度～
	施策	生涯学習の推進	種別	任意の事務
	基本事業	親しみを感じる芸術・文化の推進	市民協働	補助事業
予算科目コード	01-100401-21 単独	根拠法令・条例等		

## なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
文化協会結成以前には町主催の文化事業がなく、市民の自主的な生涯学習や個性豊かな文化芸術活動を推進するには、担い手となる文化団体を支援・育成する必要があった。	補助金を交付して、ふれあい美術展、芸能大会、芸術祭（市と共催）、伝統文化・伝統芸能子ども教室、茶道教室、陶器市、スプリングコンサート等の文化協会の活動を助成する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
芸術文化の振興を目的に活動する守谷市文化協会の自主的な事業を支援し、市民の交流と芸術文化活動の向上を図ることで、市の活性化を目指す。 文化協会会員の経済的負担を軽減し、文化事業（美術展、音楽会、各種講座など）を継続して実施してもらう。	
（参考）基本事業の目指す姿	
芸術・文化・歴史に関する活動に触れる機会・場を提供し、市民が芸術や文化を気軽に親しめるようにする。	

## 事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
守谷市内文化団体の育成・支援を図り、各団体の文化活動を活性化させる。また、文化協会の会員の減少や高齢化が進んでいるため、入会の促進を図る必要がある。	4月 総会・大人の踊り教室 5月～ 10月 茶道講座 6月 もりや夢の舞と響、ふれあい美術展、生花展 絵画教室、陶芸初級講座、陶芸ろくろの基礎講座 7月 芸能大会 9月 芸術祭実行委員会 10月 ふれあい茶会・美術展 11月 芸術祭（若い芽のコンサート・芸能祭） 12月 クリスマスコンサート、親子で楽しむ邦楽演奏会 2月 スプリングコンサート 3月 運営委員会
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
文化協会の各部会がイベント等でPRを工夫するとともに、入会促進や会員数の増加が図れるよう積極的に行っていく。	

## 次年度のコストの方向性（→その理由）

<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	協会の存在をより多くの市民に認識してもらい、会員数の増加を図る。
--	----------------------------------

R01年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（R02年度の振り返り）	
R01年度の評価（課題）	R02年度の取組（評価、課題への対応）
事業の時期や開催場所についての見直し，協議	市と共催の芸術祭では美術展のみの開催となった。 新型コロナウイルス感染症の影響で事業が中止になっている現状を鑑み，引き続き時期や開催場所についての見直し，協議を続ける。

評価（指標の推移、今後の方向性）							
指標名	基準値（H26）	H28年度	H29年度	H30年度	R01年度	R02年度	目標値（R03）
文化協会会員数（人）	580.00	568.00	532.00	536.00	530.00	478.00	478.00
実施事業数（共催事業を除く）（回）	12.00	11.00	12.00	12.00	12.00	8.00	12.00
成果の動向（→その理由）							
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	例年の実施事業のほとんどが新型コロナウイルス感染症の影響で中止となるなか，文化協会単体ではコロナ禍に対応した新規事業を実施し活動を行っている。 若い世代が関心を持ちにくい事業ではあるが，シルバー世代には人気が高い。						
今後の事業の方向性（→その理由）							
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	各事業の開催時期，場所等を再検討する。 コロナ禍であっても，比較的实施しやすい展示イベントについては前年のコロナ対策を参考に引き続き実施していく。					

コストの推移						
項目		H30年度決算	R01年度決算	R02年度決算	R03年度予算	R04年度見込
事業費	計	920	920	920	1,485	1,485
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	920	920	920	1,485	1,485
正職員人工数（時間数）		33.00	5.00	98.00	0.00	0.00
正職員人件費		138	21	397	0	0
トータルコスト		1,058	941	1,317	1,485	1,485